



糸東小だより



笛吹っ子

平成24年2月16日(木)
2月号 №17

教育目標：やさしく かしこく たくましく

寒さに負けず、スキー授業にそり遊び！



【3年生1班、第二リフトを登った地点で万歳！】

悪天候続きでしたが、子どもたちは寒さに負けず元気にそり遊びやスキー授業を楽しみました。

1年生女子

きょう、ねちのシーサイドバレースキーじょうにいてそりをしたよ。さいしょは、あんまりできなかったけど、どんだんなれてきて、だいじょうぶになりました。

〇〇さんと2人でのりました。

おかあさんたちもきてくれました。とても楽しかったです。



2年生は、2月17日(金)にそり遊びに行きます。晴れるといいですね。

大雪警報が毎日のように出されていますが、1年生はそり遊びに、3～6年生はスキー授業に行ってきました。ご存じのように、シーサイドバレーのある根知地区は、4mを超える豪雪です。3・4・5年生のスキー授業は、猛吹雪。リフトに乗っている間に雪だるまになったり、地吹雪で視界が無くなったりしました。また、あまりの寒さに(−3℃)、ゼッケンが凍り付いたり、指先がかじかんだり大変でした。一方、6年生のスキー授業は雨の中となっていました。



【好天に恵まれた1年生、ボランティアの方々と記念撮影】

きずな
深めよう 絆 県民運動
絆 いじめ見逃しゼロスクール

学校・家庭・地域が連携して進めよう

P T A講演会『宇宙に生命を探す。そして、火星で農業を！』



〔講師 山下 雅道 先生〕



〔講演会の様子〕

P T A教養部主催の第2回講演会が、1月18日（水）に行われました。講師には、独立行政法人宇宙航空研究開発機構から、宇宙農業サロン宇宙科学研究所・名誉教授、理学博士 山下 雅道 さんをお迎えしました。約1時間30分にわたり、4～6年生と保護者や教職員が、帰ってきた宇宙探査機「はやぶさ」について、火星に生命を探すことについて、火星で農業をすることについてなどの、宇宙で生きるための興味深い話をたっぷりお聞きしました。

山下先生のお話を詳しく知りたい方は、次のホームページにアクセスしてください。

http://surc.isas.jaxa.jp/Space_Agriculture/ (Google などにより「宇宙農業」で検索するとでてきます。)

このロゴマークが目印です。



Space Agriculture

先生のお話はどれも興味深い内容ばかりでした。とり

わけ、カイコを育ててマユをつかったあとのサナギを食べる話です。

食品として考えられ研究されて

いるのが、カイコだそうです。火星で、クワの木を植えて、その葉でカイコを飼います。カイコを育ててマユをつかったあとのサナギを人間が食べるのです。1年間毎日サナギを 50g 食べると、そのマユから着る物を一式絹でつくることができます。カイコは 5000 年位前から家畜にされてきた昆虫です。クワの葉のすこし苦い味が大好きで、それを食べて大きくなります。マユはカイコが口からはき出す一つながりの細い繊維で作られ、その長さは 1 km 以上にもなります。カイコのサナギを食べることに抵抗をもつ方も多いと思います。しかし、カイコのような昆虫は、エビやカニに近い動物だそうです。カイコのサナギを天ぷらにして食べてみると、エビやカニと同じような味がするそうです。

ここで山下先生は、「外交官食」の話をされました。外交官は、外国でその国のものを受け取ります。日本では食べたこともないようなものでも、美味しそうに食べなければいけません。外交官は、相手国のおもてなしや思いやりを心から喜び受け入れなければいけません。確かに「色々な物を工夫して食べる」ことは、人口が爆発的に増えている地球の食糧問題を解決することにつながりますね。

あなたは、カイコのサナギを食べることができますか。

